



マジヨリカタイルを探して、

お風呂屋さんに行きましょう！

マジヨリカタイルとは・・・大正から昭和10年代まで日本製として世界に輸出された製品で、金型で花柄など凹凸のレリーフを施した硬質なタイル。

筆で一色ずつ数種類の色釉を載せるなど製造に手間のかかった装飾タイルです。

船岡温泉

京都市北区にある船岡温泉は大正12年(1923年)に旅館「舟岡桜」の浴場として始った、西陣の旦那衆が通う高級な銭湯。豪華なタイルや見事な欄間(らんま)など、創業当時の豪華な脱衣所の内装は奇跡的にそのままの姿で維持されていて登録有形文化財に指定されています。



脱衣所の四方の壁上部には透かし彫りがはりめぐらされており、素晴らしい彫刻芸術を鑑賞することができます。右の湯と左の湯を中央で仕切る壁上にある欄間には上海事変における『肉弾三勇士(爆弾三勇士)』が描かれています。大砲、騎馬兵士、軍艦、飛行機・・・透かし彫りとしては珍しい図柄です。

脱衣所と浴場を結ぶ渡り廊下は、マジヨリカタイルで装飾された鮮やかなスペース。このタイルも創業当時からのもので、大正時代に流行していた様式です。



渡り廊下を支えているのは、「菊水橋」。もともとは千本鞍馬口にあった公共の橋なのですが、市電が通るために廃棄されることになりました。それを移築したのが、この橋なのです。

大正時代の建築美にレトロモダンな内装・・・でも中は改装されて、使いやすく広々としたお風呂屋さんです。外人さんも、多く訪れるようです。

船岡温泉は・・・

京都市北区紫野南舟岡町82-1

TEL 075-441-3735

京都駅より市バス(206系統)千本鞍馬口バス
停下車 徒歩約5分

この船岡温泉のある鞍馬口通りをあと5分ほど東に歩くとまた風格のある建物に出会います。ここは数年前まで「藤森湯」というお風呂屋さんだったそうです。

現在は建物の外観はそのままだに、浴室の作りを残して改装され飲食店や洋服屋が入る複合シヨップ「雑楽庵 WOOD-INN」になっています。浴室内のマジヨリカタイルはそのままだに残されており、当時の面影を偲ぶことができます。



カフェ「さらさ西陣」の店内は格天井と呼ばれる立派な高い天井、まさにアンティークとしか呼べない和製マジヨリカタイル全面張り。男湯と女湯を隔てていた壁も、今はこんな感じです。

マジヨリカタイルって？

近代イギリスの装飾タイルを模倣したもので、当時タイルメーカーのミントン社が「マジヨリカ・タイル」という商品名で売り出していました。日本でも呼び名を同じとし、正式な様式名ではありませんが、このタイルのために開発した色釉を「マジヨリカ釉」と命名。15~16世紀のイタリアやスペインの錫釉色絵陶器(マジヨカ)の流れをくむ色彩色表現ができるという意味合いから和製マジヨリカ・タイルの完成となりました。

シルクロードを渡って
やってきた、ロマン溢れる
アンティークタイル。



ディスプレイとして壁やテーブル上を飾っても
見事に華やぎを与えてくれる逸品。
テーブルやドアに埋め込んでも活用できる
独特の風合いを持っています。



淡い色合いや華やかな色合い、優雅でやわらかな色彩、組合せて連続した柄を作ってみたり、ポイント使いをしたり・・・小さくても存在感があるので小さなスペースのディスプレイや内装のポイントに、レトロな華やぎを添えてくれます。

大正ロマンの心地よいバランスは家づくりにも取り入れてみたくくなります。

マジヨリカタイルは要チェック！

もしも・・・地震とお金のこと

住まいの地震対策や耐震診断も大事ですが、震災がもし起って困ることのひとつに「お金」のことがあると思います。

★ATMが付かない？ ★お金が燃えてしまったら？ ★国からの保障金は？
「お金と地震」という目線で考えてみると・・・

★ 地震で家が壊れたときの国や自治体からの補償金ってあるの？

地震などの自然災害で家や財産を失っても国や県からの補助金は原則ありません。

税金で個人の財産を保障しないのが政府の立場だからです。ただし、被害によっては【被災者生活再建支援制度】などにより300～200万円が給付された例も。

ただ、最大額給付されるのは家が倒壊した時のこと。基本的には自分で再建しなければならぬと考えて備えをしておくことが大切！

★ 地震保険の保険料っていくらぐらい？

基本的なことは地震保険だけの単独契約は出来ません。必ず火災保険とセットで契約しなければなりません。

保険料は滋賀県の場合、100万円あたり約1270円。ちなみに東京や静岡は3130円です！

このように地域によって掛け金が違ってきます。

ただし、一回当たりの震災で保険支払総額が5兆円を超えると、割合に応じて減額される場合もあります。詳しくは保険会社にお問い合わせください。



★ もしも時に・・・現金はいくらぐらい用意しておいたらいいの？

地震の時にはカードや通帳がなくても、本人と確認できれば預貯金を引き出せる緊急処置が講じられます。そして金融機関は地震に強い店舗を作っているので何日もお金を下ろせないということはないでしょうとのこと。

阪神大震災の時には小銭が不足してこまったようです。少しの現金と身分を証明できるモノを非常用持ち出し品にに入れておけばいいでしょう。

★ 耐震診断と補強工事の補助金って？

阪神大震災のとき、建物の倒壊でなくなられた方が殆どだったので、滋賀県でも耐震診断や耐震補強に力を入れています。まずは、各自治体に相談して耐震診断を受けること。

ただし、昭和56年5月以前の木造建物など無料の耐震診断には条件が付きます。

耐震工事費用は、施工方法にもよりますが、30万円くらいで出来る事例もありました。

ちなみに・・・現金が震災などで燃えてしまった場合、灰があれば日銀でその灰を調査して現金に交換してくれるそうですよ～

私たちは今、こんな仕事をしています。

築200年強の古民家再生工事。

甲賀市の田園にある、築200年強の古民家再生工事を始めることになりました。
大学で陶磁器の研究をしている息子さんとご両親が住む民家です。

今回のお施主さまは、忍者屋敷で有名な地域、甲賀市内の田園に建つ築200年強の茅葺の住まい。

廻りを見渡しても、茅葺の住まいはあまり残っていません。貴重な建物です。

ご両親とそのおばあちゃん、大学で研究職をされている息子さんと3世代の住まいになります。

お施主さまのリクエストは・・・

- 1) 出来るだけ古いものはそのまま残す。
- 2) 茅葺のそのまま利用する。
- 3) 居住スペースは隣接している農機具小屋を再生、寝室などはその2階を利用。
- 4) 寒さ対策 などなど

息子さんは一年の半分以上、海外に居られますので、ご両親とおばあちゃんを主体です。

まず、息子さんは設計士さん探しから始められて京都で勉強熱心な設計士さんと出会います。

その、設計士さんと今度は施工業者探しへ。

最初は、入札方式で行う予定でしたが、私たちと大工の棟梁の話を聞き、入札は中止。私たちとプロジェクトを組んで協働で設計と工事を行うことになりました。

滋賀の民家は京町屋と違うので、大工の棟梁と私たちと何度も打合せしながら図面を進め出合いから考えると約1年かかって図面が完成。

そして工事は来月7月から。完成は平成23年の春ごろです。

風結い～山里暮らし工房

高島市が地元の有志と企画し、長浜の古民家を移築した宿泊施設「風結い」を見学してきました。

目の前にある田んぼでは、田植えから稲刈りまで体験。

湧き水を利用した「川戸」もあります。これは施設の近くにある「秋葉の水」を敷地内に引いてお米や野菜を洗う伝統的な「炊事場」。

また地元の農家の方との、ちまき作りや無農薬の野菜作りのお手伝いを通しての手作り体験。

エネルギーは目の前にある山の恵みを最大限に利用。薪割りから始まり、囲炉裏にマキストーブ、そして給湯器の薪を燃やして使うスタイルを体験できます。

これから「火のある暮らし」を考えておられる方にはもってこいの施設ですね。

そして、本来この施設の狙いは、他の地域からの移住者を招き入れること。民家の前になる土地も販売する予定だとか。金額は300坪で200万円弱だそうですよー。

一泊 大人 3,000円～ お問い合わせは「結びめ」まで 電話090-5014-1600

環境共生住宅工房・(株)ベストハウス

滋賀県栗東市小野 1007-3

フリーダイヤル 0120-6955-81

TEL077-552-6955 FAX 077-552-6775

ホームページ <http://besthouse.cc> E-mail 6955@besthouse.cc

ゴミの減量化も考え、今号をもちまして手配り分は終了させていただきますこととなりました。

郵送を希望していただける場合はお手数をおかけしますが、(株)ベストハウスまでご連絡くださいませ。

Eくらぶ通信の長い間のご通読ありがとうございました。